

個人研修奨学金

エジプト

榎本イスマイルアルハッサン

国際学部 国際学科 4年

東京都私立代々木高等学校出身

2022.4 拓殖大学入学

2025.8 個人研修参加



クラスメイトと教授

エジプトでの熱い体験

【研修先の紹介】

私はアラビア語を学びにエジプトへ40日間研修に行きました。日本から飛行機でトランジットを含め約19時間かかり、時差は6時間あります。エジプトは砂漠の国で乾燥しており、太陽の熱も強く、国民の90%がイスラム教で、10%がキリスト教です。また、自分が住んだ街には野良犬が多く、昼間は大人しそうに見えますが、夜になると活発になり狂暴化します。ある日、6匹ほどの犬に追いかけられ、逃走しながら振り返った際に見た、眉間にしわを寄せ、舌を出して全力で走る野生の犬の姿は、忘れられない良い思い出です。

語学学校はアズハル大学にあり、授業は朝8時から12時半まで行われます。クラスメイトは中国・マレーシア・タイ・バングラデシュ・ナイジェリア・ギニア・ソマリア・トルコ・ノルウェー・イギリス・アメリカ・カナダなど、世界各国から集まっていました。1クラスの人数は15人~40人ほどで、アラビア語のレベルによってクラス分けがされるので、自分のレベルに合ったクラスで学べます。クラスメイトは勉強熱心でユーモアもあり、とても楽しい雰囲気でした。帰宅後は、14時から寮でアラビア語の授業を受け、更にその後別のアラビア語のクラスを受けます。このように、とても充実した語学研修を送ることができました。

【日常生活について】

住んでいた学生寮には約350人が暮らしており、エジプト・スーダン・ケニア・アルジェリア・チュニジア・チャド・中央アフリカ・ニジェール・ナイジェリア・ベナン・ガーナ・ブルキナファソ・コートジボワール・ギニア・セネガル・イエメン・パレスチナ・シリア・ウズベキスタン・アフガニスタン・パキスタン・インド・バングラデシュ・インドネシアなど世界中から学生が集まっていました。多国籍な環境でありながらも日本人は私が初めてだった為、とても歓迎され、「ハードワーカー」「英雄」



友達

「ボス」などの良いあだ名で呼ばれていました。

寮の学生たちは私と同じ語学学校やアズハル大学に通う人もいれば、他の大学に通い、学者や医者を目指す人もいるなど、とてもレベルが高い学生ばかりでした。共通語はアラビア語ですが、ほとんどの学生は自国の言語に加えて、更に別の言語を話します。私は毎日、すれ違う人全員にアラビア語で積極的に話しかけることを心がけていたため、アラビア語だけでなくフランス語やウルドゥー語、ハウサ語などの言語も少し学ぶ事ができたことは、貴重で楽しい経験になりました。ある日、アルジェリア人の双子から「常にノートとペンを持ち歩き、会話で出た新しい単語をその場でメモすると良い」とアドバイスを受け、また同時にアフガニスタン人から、アラビア語の40%を占めると言われる特徴を教わりました。この日から成長速度が一気に早くなり、コミュニケーションの質が上がったため、友人たちに感謝しています。物価については、地域によって変わりますが、住んでいた地域はとても安く、バス代45円、1.5Lの水が30円でした。またエジプト料理の代表的なコシャリは120円で、おいしくて量も多かったです。一方、ニューカイロに行くと、日本で2万円の靴が6万円で売られているなど、エジプトに大きな格差があると感じました。

【研修を通して得たこととその成果を今後の学生生活や社会へどのように還元するか、について】

今回の研修で得たことは「少しずつ積み重ねることの大切さ」です。エジプトに行く前から意識していましたが、実際にエジプトで生活する中で意味をより深く理解できました。初日は自己紹介しかできませんでしたが、寮の友人から「少しずつ、少しずつ」と言われ、毎日少しずつ積み重ねるうちに「あなたはもうアラビア語話者だ、成長速度がとても速い」と認められ、「少しずつ」の大切さを実感しました。今後は3年次で落単した上級アラビアIIを再履修し、エジプトで学んだことを実践し続けます。そして、まずは自分自身が成果を示し、その後は友人や社会にもこの姿勢を共有していきたいと考えています。



エジプト料理